

連載

Kamei Shizuka



Number 68

# 亀井静香の政界交差点

## 今

村洋史は衆議院議員を1期務めただけの元職だ。ほとんどの読者はご存知ないだろう。だが、俺にとっては見所のある男で、かねて親交を持っている。

彼は石原慎太郎や平沼赳夫が作った「たちあがれ日本」に入党し政界入り。たちあがれ日本は橋下徹率いる日本維新の会と合流し、維新から12年の総選挙に出て初当選した。

俺が今村を知ったのはその後だ。当時維新に所属していた衆議院議員の西村眞悟を通じて「亀井先生に会いたい」と言ってきたのだ。そこで、赤坂の料亭「外松」で会った。彼は若手議員の仲間5、6人を引き連れ

てきた。そして、日本はどうあるべきかについて熱く語り、色々質問をしてきた。

62年宮崎県生まれ、福岡県育ちの今村は、埼玉医科大学を出て整形外科医となった。しかし、

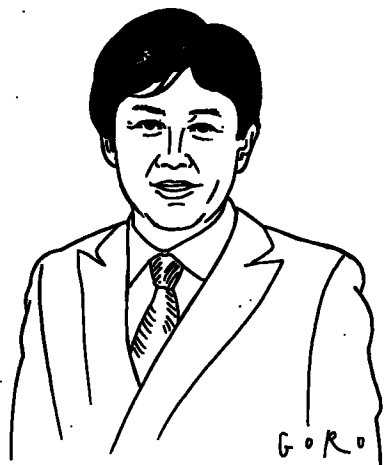
大病院で同僚と諍い（いさめい）を起こして、精神科へ転科したそうだ。その後、埼玉や茨城で勤務医をしたあと、新しく病院を建てようとしたがうまくいかなかった。恩師の紹介で愛知にある病院を引き継ぎ、現在はその精神科「いまむら病院」で院長をしている。医者としては、相当な苦勞人だ。

医者の仕事のかたわら、今村は石原の著書を読んだり、尖閣諸島などの領土問題や日本の先行きに強い懸念を抱いていた。政治家になろうと考えた契機は、民主党政権に危機感を持ったことだという。連立与党だった国民新党の街宣車を銀座で見

絵／佐々木博郎

## 第68回 今村洋史

### あまりに真つ直ぐで政治に向かない政治家



彼ほど澄むような心を持った政治家は少ない。また、国家観や歴史観も俺に近いものを感じた。だからこいつとなら一緒にやれると思った。

しかし、残念ながら新党の構想は着地せず、今村は準備不足から選挙にも出られずに終わった。その後は自民党に入党し、17年の総選挙には比例で出たが落選している。結局、1期を務めただけだ。

## 正

直に言う、今村のよくな純粋すぎる男は、ほんとうは政治家には向かない。

俺は言っちゃった。「お前の病院の職員全員が目の色変えるくらいじゃないと、選挙はダメだぞ」と。足元の人たちが死に物狂いで応援してくれるようであれば、まず勝てないのが選挙というものだからだ。

かといって、今村のような人間に、汚れ仕事をさせるのはいとも思えない。だから俺は「お前は政治家とは別の道で日本のために頑張れ」と言っている。

16年11月に、俺がトランプに会いにニューヨークへ行ったと

きのことだ。アメリカ大統領選の最終盤で、トランプは劣勢だと言われていたが、俺はあいつが勝つと確信していた。ただ日本については、トランプはあまり理解しないで発言していると

も感じた。そこで、「大統領になったら、日米関係をどうするか」に関して意見交換をしたいと思っただ。

俺は当然、面会の要請をして訪問したわけだが、選挙の最中に日程は流動的で、おまけに途中で情勢が変わり、日程を得られなくなっちゃった。トランプと花札勝負をしようと思っ

実はこのニューヨーク訪問の時も、俺は今村に電話した。「大統領候補のトランプと会話することになった。カバン持ちさせるから一緒に来い」

減多にない機会だから、若い奴にも同席させてやりたいと思っただ。ところが、今村は「バスポートが失効しているので行けません」と返事してきた。にわかには信じられなかったが、開業医というのは海外にも行けないくらい忙しいんだと思っただ。

## 今

村は国士だが、自分の理想ばかり言いすぎる、きらいがある。ある時、

「国民新党は民主党とは違う。内閣にいながら自分たちの主張を貫く亀井静香とは、どういう政治家なんだ」と思い、俺と会いたがったのだ。

## 最

初の印象は、とにかく真面目、青竹を割ったような男だった。党も違う俺のことを慕ってくれたので、1、2ヵ月ごとに会合をやった。憲法改正、国のあり方、自分の理想を語り、俺の考えを聞いてくる。真面目な議論が好きな奴なんだ。

維新は橋下、石原の共同代表制を敷いていたが、それも長くは続かなかった。東京の石原派と大阪の橋下派で二分していたからだ。石原たちは「次世代の党」なる政党に入党し、今村もそこについて行った。

14年の選挙の前に、俺は新党立ち上げを画策していた。そこで、今村に「もし俺が新党を立ち上げたら参加してくれ」と言った。すると、「ぜひ参加させてください」と即答し、平沼たちにも「もし亀井先生が新党を作ったら私はそちらに入りませう」と公言してくれた。

彼が俺の事務所に来てきて、政権批判を繰り返した挙げ句「私は政治には向いていない。テロリストになる。死ぬ気なら一人くらい殺せる」と囁いた。

俺は思わず大声で「だったら一人で死ぬ」と一喝した。俺は警察官僚時代に、浅間山荘事件などで左翼のテロリストたちを見てきた。その上で「国を変えるには政治をやるしかない」と確信したから、長く国会議員をやってきた。安易にテロリズムを口にするのは我慢ならなかったのだ。

政治で国を変えるには、選挙で勝ち上がり、政権を取って権力をつかまなくてはならない。俺は一度も負けることなく当選を続け、政権を取るために自社さ政権や民主党政権などあらゆる策を使ってきた。それこそ清濁併せ呑むからこそできたことだ。ただ主張するだけでは現実には変わらないのである。

俺は、今村という男を非常に評価しているが、一方で政治家には向かない男だと思っただ。国を想うその真つ直ぐな心を、何かしら別の道で活かして欲しいと願ってやまない。